

青南幼稚園より 6月号 南幼稚園だり

平成25年 5月31日

園長 茂木 尚子

異年齢の関わりの中で育つ

青南幼稚園では、3歳児・4歳児・5歳児の3学年があり、園生活の中で様々な関わりが見られます。

4歳児すみれ組の幼児2人と担任が、砂場で小さなシャベルを使って山作りをしていました。砂場では5歳児かえで組も3人で大きなシャベルを使って山を作り、みるみるうちに高い山ができていきます。すみれ組の担任が「かえで組さん、高い山ができたね。すみれも頑張ろう」と4歳児に話すと、かえで組の一人が「手伝ってあげるよ」と言い、他の幼児と共に4歳児の山作りを手伝ってくれました。同じぐらいの高さの山が2つできると「つなげたいね」「真ん中に山を作ってつなげよう」と5歳児が提案し、一緒に大きな山を作ることになりました。3つの山が完成すると、トンネルや橋作りに発展し、5歳児のリードのもとに4歳児も楽しく遊ぶことができました。

4歳児は、今はまだ大きいシャベルを使用していません。そんな様子を見た5歳児が4歳児の山作りを手伝ってあげようという気持ちになり、やがてそれが共同の山やトンネル、橋作りへと発展していったのです。園庭は、園児同士が自然な形で触れ合い、関わる事ができる場所です。砂場で経験豊かな年長児に遊びのアイデアや実現方法を提案してもらい、教えてもらいながらダイナミックな遊びを4歳児も一緒に経験することができました。また5歳児にとっても、優しい気持ちを表し、自分たちの力を発揮し、年長者としての振る舞いを体験することができました。



4歳児と5歳児

3歳児は5月中旬からお弁当が始まりました。まだまだ支度等に援助が必要な3歳児に、5歳児が手伝いに来てくれました。テーブル拭き、弁当等の置き方や袋のしまい方を教える、ヤカンを取りに行き、お茶を一人一人に注ぐ、「いただきます」のあいさつをするなどのお手伝いをしました。5歳児は、「お弁当箱の蓋、開けられる？」と聞きながら手伝ったり、3歳児の支度をする様子をじっと見ながらやり方を教えたりしていました。3歳児はお兄さんお姉さんが来てくれるのを毎日楽しみにしています。



3歳児と5歳児

関わりの中で「大好き」「うれしいな」「かわいいな」という気持ちが自然に芽生え、人に対する快感情や信頼感につながっていきます。また、3・4歳児は実によく5歳児のすることを見ていて、憧れの気持ちで学ぼうとします。5歳児もまた年長者の自覚をもち、お手本になろうとして力を発揮します。今年度本園では、『異年齢とのつながりを深めるための指導計画の作成』を園内研究会のテーマとして取り組んでいます。異年齢の関わりの中で、子供たちが育ち合うことができるように研究を深め、それを支える教師の援助について学んでいきます。

3歳児○自分の好きな遊びを見つけて遊ぶことを楽しむ。 ○新しい素材に触れたり感触を楽しんだりする。

○園生活の仕方が分かり、身の回りのことを自分からしようとする。

4歳児○自分からしたい遊びを見つけて遊んだり、水遊び等新しい遊びに関心をもち、やってみようとしたりする。

○学級のみなどと触れ合いながら、一緒に遊ぶ楽しさを感じる。

○身近な植物や生き物に触れ親しんだり、栽培物の変化に関心をもったりする。

5歳児○自分の思いや考えを伝えたり、相手の思いや考えを受け止めたりして、友達と一緒に遊びやグループ活動を進めていくことを楽しむ。 ○梅雨時の自然現象の不思議さを感じる。

○栽培物の生長に関心をもち収穫を喜んだり、身近な生き物を飼育観察し、関心を広げたりする。